

施策17. シェアサイクル事業の推進【再掲】

市民アンケート調査によると、シェアサイクルを利用したいと答えた方の利用目的は、「買物・食事など」や「観光・レジャー」が6割を超えており、街なかでの移動や観光利用でのニーズが高いことがうかがえます。

これを踏まえ、ニーズに応じたシェアサイクルステーションの配置を検討するなど、街のにぎわいづくりや周遊観光の促進に向けた取り組みを推進します。

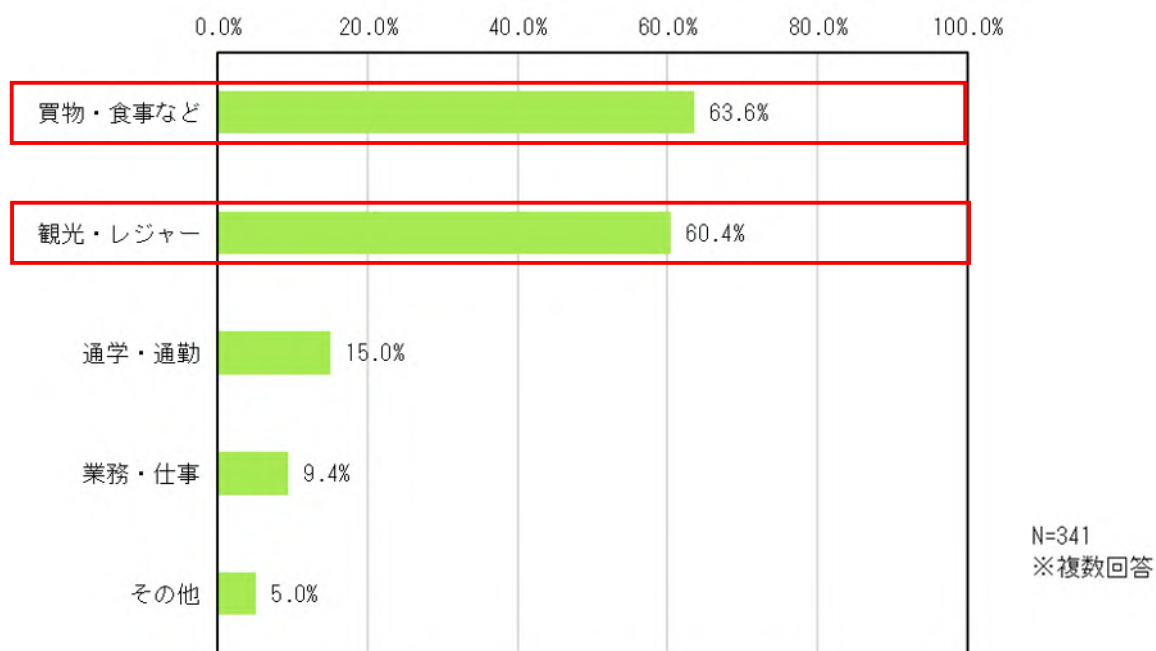


図 シェアサイクルを利用したい方の利用目的

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

また、本市を訪れる観光客の利便性向上と地域活性化を目的に、各エリアの特性に応じたレンタサイクルを展開しています。小倉都心部では電動アシスト自転車による回遊性向上、門司港レトロ地区では多様な車両で街並みを巡るレンタルサービスを実施しています。今後もこれらを普及・促進させることで、環境負荷の少ない観光形態の確立と地域の賑わいづくりを推進します。

＜レンタサイクル（小倉都心部）＞



資料：NPO 法人I-Do

＜レンタサイクル（門司港）＞



資料：NPO 法人I-Do

6. 計画の推進

6.1 指標

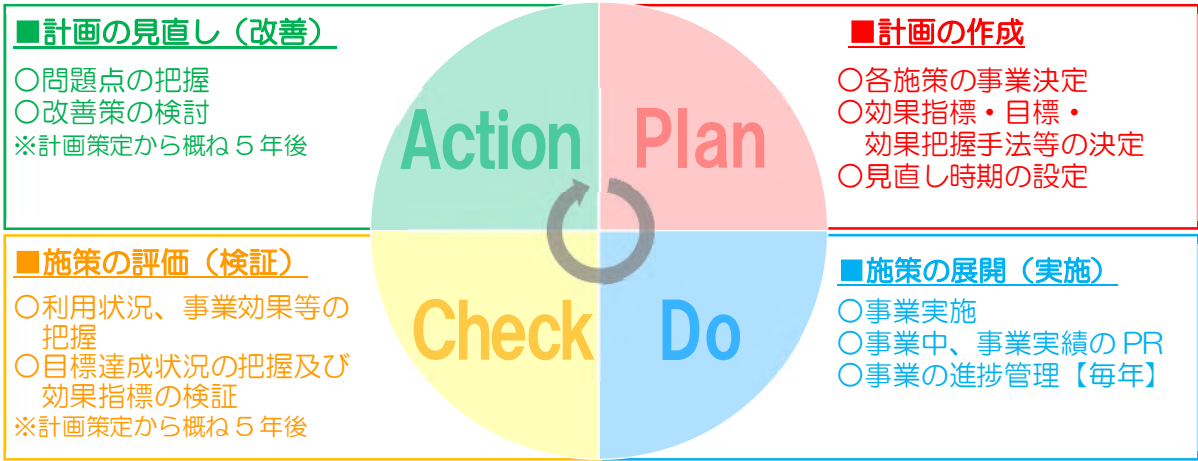
以下の指標を目標に掲げ、実施すべき施策に取り組んでいきます。

施策		指標	R元年度末 実績	R7年度末 実績	目標 R12年度末
1	自転車通行空間 ネットワークの形成	自転車ネットワーク計画を主体とした 自転車通行空間の整備延長	39 km	55 km	85km
2	利用しやすい 駐輪環境の形成	駐輪施設を利用する人の割合	78%	87%	90%以上
3	放置自転車対策 の推進	自転車放置禁止区域内の 放置自転車撤去台数	1,240 台	805 台	600 台以下
4	シェアサイクル事業 の推進	シェアサイクル 1 日平均利用台数	177 台	330 台	500 台
7	自転車利用の促進に 関する情報発信の充実	ウェブサイト「スマートサイクル ライフ北九州」の 1 日平均閲覧数	180 回	181 回	360 回
9	自転車の安全利用に 向けた市民の 交通安全意識の向上	ルール・マナーが守られていると 感じる人の割合	65%	69%	80%以上
		年間の自転車関連事故件数	622 件 (令和元年)	417 件 (令和7年)	370 件以下 (令和12年)
10	自転車保険の加入促進	自転車保険の加入割合	52%	65%	100%
11	自転車盗難の防止	年間の自転車盗難件数	903 件 (令和元年)	1,312 件 (令和7年)	880 件以下 (令和12年)
13	健康増進に関する 広報・啓発	自転車の利用頻度が 月に数日以上という割合	20%	17%	30%
15	自転車通勤の促進				
14	自転車貸出し施設 の活用	河内サイクリングセンター及び 響灘緑地サイクリングターミナル の年間利用者数	46,000 人	27,550 人	50,000 人
16	サイクルツーリズム の推進	市内の広域サイクリングルートの 整備数	—	0 ルート	2 ルート

6.2 計画の推進と進捗管理

計画の推進にあたっては、国や福岡県、その他の関係団体等と緊密に連携を図ることとして、以下のPDCA サイクルにより進捗管理を行います。

(R3.1)



参考資料

策定体制と策定経過

■ 策定体制

北九州市自転車活用推進計画検討会

(五十音順、敬称略)

	氏名	所属
構成員	内田 晃	北九州市立大学 教授
	河邊 政恵	株式会社リバー不動産 代表取締役社長
	寺町 賢一	九州工業大学大学院 教授
	濱田 千夏	NPO法人Ｉ－ＤＯ 理事
	藤重 めぐ美	北九州市ＰＴＡ協議会 副会長
	藤本 幸彦	サイクリングチーム Blue Grass
	山野内 聡香	北九州市立大学 学生（公募構成員）
オブザーバー	福岡県警察本部交通企画課	
	福岡県警察本部交通規制課	



■ 策定経過

第１回北九州市自転車活用推進計画検討会

令和８年３月２６日（木）

- ・北九州市の自転車施策に関するこれまでの取り組み状況の報告について
- ・北九州市自転車利用に関する市民アンケート調査の結果報告について

第２回北九州市自転車活用推進計画検討会

令和８年７月１７日（金）

- ・北九州市自転車活用推進計画（見直し素案）について